

2017.6.14 17:29

【ボクシング】ルーキーに聞く・齋藤麗王（東農大） 東京オリンピックでメダル狙う

仮面ライダーが好きだった。4歳のころ、30歳過ぎてから空手道場に通い始めた父親に「仮面ライダーは空手をやっている」と騙され、空手を始めた。そこから、学生時代にボクシングで国体出場経験があった父親の影響もあり、日章学園中学校入学とともにボクシングを始めた。高校時代は選抜、総体、国体を二連覇、高校6冠王者となった。高校時代によく決勝戦で顔を合わせていたのが、森下心一朗（京都学園-同志社大）。

東農大への進学は、山本浩二監督が日章学園OBで、日章学園ボクシング部の監督、コーチも東農大OBということもあり、自然な流れだった。高校の時から寮生活だったため、東農大の寮生活もあまり気になることはない。

5月に開幕した第70回関東大学ボクシングリーグ戦も5戦のうち、3戦が終わった。高校6冠王者は開幕から駒大・齋藤陽二（習志野）、拓大・古川晴輝（関西・全日本LW級9位）、東洋大・吉田昌平（出水工業）を相手に3連勝。ワン・ツーから顔面へ放つ左アッパーのコンビネーションは滑らかで、時にはサウスポーにスイッチしている。「スタミナの配分も2戦目、3戦目になってわかってきた。高校ではチャンピオンで、自分が一番だったが、大学入学当初は周りが強い先輩ばかりで、立場が真逆になり、練習でサンドバッグを打っていても感触が悪かった。強い先輩たちとたくさんスパーリングをしたことで、徐々に足を使って戦えるようになってきた」。対戦校のボクサーは、学年が上という意地か、パンチを当てても、ひるむことなく攻撃してくる。「倒しに行ってしまうのが自分の弱点でもある。倒しに行くのを我慢して、しっかりパンチを当てて、3分3ラウンド動けばいい」と冷静だ。

当然、今年の全日本選手権はチャンピオンを狙っている。もちろん、その先は2020年東京オリンピックでのメダル。しかし、全日本選手権のライト級にエントリーしそうなボクサー、東農大・森坂嵐（リオ五輪代表）、東洋大・木村運太郎、自衛隊体育学校・藤田健児は、新旧全日本チャンピオンで、激戦区となりそうだ。彼らに勝利し、日本代表となって東京オリンピックのボクシング会場、両国国技館のリングに上げられるか。（岩崎仁）

■プロフィール

齋藤麗王（さいとうれお）

東京農業大学ボクシング部1年。1998年4月23日生まれ。宮崎県出身。日章学園高等学校卒業。高校タイトル6冠。宮崎県スポーツ栄誉賞受賞。戦績69戦64勝（29KO・RSC）5敗。



後楽園ホールにて

©2017 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.